NACOME

全国大学音楽教育学会 関西地区学会
平成 27 年度 後期研究会

＊＊

平成 28 年 1 月 10 日（日）13：00〜16：40

ヤマハミュージックリテイリング神戸店 ３階ミュージックサロン

神戸市中央区元町通 2-7-3

主催　全国大学音楽教育学会 関西地区学会

全国大学音楽教育学会 関西地区学会
平成 27 年度 後期研究会

プログラム

Ⅰ．開会・学会諸連絡（13：00）司会：生地加代

1. 理事会報告
2. 諸連絡事項
3. その他

担当：山岸 徹

Ⅱ．研究演奏発表（13：10～13：55）

1. ピアノ独奏　瀬川　和子（神戸常盤大学）
   モーツァルト作曲　ピアノソナタ KV330 ハ長調 第１楽章

2. ピアノ独奏　小谷　朋子（常磐会短期大学）
   ショパン作曲　24の前奏曲より　第6番、第15番

3. ピアノ独奏　奥田　昌代（大阪信愛女学院短期大学）
   ガーシュイン作曲　The Man I Love
   Swanee
   Who Cares?
   I Got Rhythm

4. ピアノ連弾　プ リ モ：久野以早夫（東京福祉大学名古屋キャンパス）
   セコンド：藤本　逸子（東海学園大学）
   シューベルト作曲　二つの性格的行進曲　Op.121 No.1

5. ピアノ連弾　プ リ モ：生地　加代（武庫川女子大学）
   セコンド：山本　敬子（大阪千代田短期大学）
   ローゼンブラット作曲　二つのロシアの主題によるコンツェルティーノ

6. ピアノ連弾　プ リ モ：古庵　晶子（京都ノートルダム女子大学）
   セコンド：鷲見　美千代（園田学園女子大学短期大学部）
   ピアソラ作曲　リベルタンゴ
   葉加瀬太郎作曲　情熱大陸

質疑応答　　司会：永井正幸

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

Ⅲ．研究口頭発表（14：05～15：05）

1．安本　雅子（大阪青山大学短期大学部）
　ピアノ初心者をソナチネへ導く２年間の授業プロセス
　　～保育者養成校の学生の実状を配慮した指導の流れ～

2．中尾　かつ江（大阪青山大学短期大学部）
　歌うこと、表現することへのアプローチ　　ー保育者養成の現場からー

3．戸川　晃子（神戸常盤大学）
　音楽指導における「音符の言語化」の可能性について

質疑応答　　司会：生地 加代

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

Ⅳ.　講　演（15：15～16：45）

講師：村尾　忠廣　先生
演題：幼児のナンバリズムとナンバで歌いたい幼児の歌

幼児のヨチヨチ歩きは手足を一緒に動かすナンバなのですが、西洋音楽の訓練を受けた音楽教師は西洋リズムでこどもの歌を歌います。私は、湯山の「あめふりくまのこ」でさえ、ナンバ風のリズムでピアノを弾き歌います。それを実演しながらお話します。

質疑応答　　司会：山岸 徹

村尾　忠廣　先生　プロフィール：

学歴：1969年 東京芸術大学チェロ科卒、1971年 東京芸術大学大学院音楽学専門課程修了 芸術学修士
1982-1983年 ペンシルヴァニア大学交換研究員

専門：認知音楽学　子どもの唄の発達
作曲・編曲

職歴と役職：
帝塚山大学現代生活学部 客員教授、香港教育大学・愛知教育大学 各名誉教授
ISME（国際音楽教育学会）理事（2000-2004）、ISME リサーチ委員会委員長（1998-2000）
日本音楽教育学会 会長（2001-2004）、日本音楽知覚認知学会 副会長（1996-2000）
APSMER アジア太平洋音楽教育学会 委員長（2006-2009）
帝塚山大学現代生活学部 学部長（2011-2013）

単著：『調子外れを治す』（音楽之友社）、『唱歌・童謡・わらべ唄の伴奏和声』（帝塚山大学出版会）

研究演奏発表趣旨

1. ピアノ独奏　　モーツァルト作曲　ピアノソナタ KV330 ハ長調 第１楽章

瀬川　和子（神戸常盤大学）

ソナタ第 10 番の正確な作曲時期は不明だが、モーツァルト 23 歳の頃、ほぼ 1778 年の７月から９月にかけてパリで作曲されたと推定されている。いわゆる第９～13 番のパリ・ソナタ５曲の中の１曲である。

３楽章で構成されているが、第１、３楽章ともに４分の２拍子、ソナタ形式。主題は２小節動機となっている。ヘ長調の第２楽章は、途中で同主短調への転調が印象的なアンダンテ　カンタービレ　４分の３拍子の曲である。

今回演奏させて頂く第１楽章はアレグロ・モデラートで、規模も小さく、優しさと愛らしさに満ちた曲である。それだけではなく、小さな悲しみ、翳りも含まれている。左手は 16 分音符で始まるが、多様な音型に変化していく。分厚く、重苦しい響きにならぬように、生き生きとした、伸びやかな演奏を目指したいと考えている。

2. ピアノ独奏　　ショパン作曲　24の前奏曲より　第6番、第15番

小谷　朋子（常磐会短期大学）

ショパン「24 の前奏曲」の中でも、第 15 番は≪雨だれ≫として有名である。

ショパンがマヨルカ島に滞在していた頃はちょうど地中海性気候の雨の多い時期で、長く降り続く雨が第 15 番の完成に影響を与えたとも言われている。As の連続が、中間部から異名同音 gis となり、したたる水のしずくの音のようにオスティナートで表現される。

ショパンが亡くなった後に書かれたジョルジュ・サンド著「我が生涯の記」にも、「重々しい凍り付いた水のしずくが胸の上に拍子を合わせて落ちていた。(略) その夜の彼の作品はカルトゥジオ会僧院のよく響くタイルの上に反響する雨のしずくで満ち満ちていた。しかし、それらは彼の想像の中で、彼の歌の中で、天から彼の心に落ちる涙によって表現されていた。」とある。

しかし、最近の研究ではショパンの弟子グートマンが、ショパンがマヨルカに行く前から第 15 番の写譜をしていたことが、当時のインクの色から判明した。

先日日本ショパン協会研究会において相愛大学北村智恵先生が、「雨だれ」は 15 番ではなく 6 番ではないか？と推察されたことがきっかけで、本日、私は第 6 番と第 15 番を弾かせて頂き、ショパンの作品の妙味を感じたい。

3. ピアノ独奏　　ガーシュイン作曲　The Man I Love
Swanee
Who Cares?
I Got Rhythm

奥田　昌代（大阪信愛女学院短期大学）

ロシア系ユダヤ移民の子であるジョージ ガーシュイン（1898 年～1937 年）は、ジャズとクラシックを融合させたアメリカが生んだ稀有の作曲家である。クラシック作品として扱われる「ラプソディ イン ブルー」「パリのアメリカ人」等が有名であるが、彼の真骨頂は数々のヒットを生み出した兄アイラ作詞によるポピュラーソングにあるといえる。15 歳で高校を中退し楽譜を宣伝用に弾いてみせるピアニストとして仕事をしていた時に作曲した「SWANEE」が時の大スター歌手の耳にとまり繰り返し歌われたことでミリオンセラーとなった。21 歳でソングライター界の寵児となったのである。

「THE MAN I LOVE」は 26 歳の時ミュージカル『Lady be Good!』のために、「WHO CARES?」は 33 歳の時映画『Of Three I Sing』のために、「I GOT RHYTHM」は 32 歳の時ミュージカル『Girl Crazy』のために作曲されたものである。この３曲は 1970 年振付師ジョージ・バランシンが１幕のバレエ作品『WHO CARES?』（誰がかまうものか）の中の曲として使用したため、再び多くのファンを魅了する楽曲として蘇った。

クラシックピアノの奏法とは異なるのでジャズの味わいを出すのは非常に難しいが、ピアノ表現の語法としては大切な要素であるので、今回挑戦することとした。

4. ピアノ連弾　　シューベルト作曲　二つの性格的行進曲　Op.121 No.1

プ リ モ：久野以早夫（東京福祉大学名古屋キャンパス）
セコンド：藤本　逸子（東海学園大学）

学生にピアノレッスンを行う教員である間は、「現役の生徒」でいようと、久野も藤本も考えている。ここで言う「現役の生徒」とは、恒常的にピアノレッスンを受ける立場でいようということである。ピアノレッスンを受けることによって、「分かっていること」と「できること」の距離は如何に遠いかを常に実感することができる。また、指導者の言葉がレッスンを受ける者の心にどのように響くかを常に体験することができる。これらの「実感」や「体験」が、日頃の指導者としての我々の言動に大きな反省を促してくれる。特に、「打たれ弱い」と言われる世代の学生には、指導者の「一言」が学生の死活問題につながる。常に心しなければならないことである。

「二つの性格的な行進曲」は、２曲とも連打が多用されている。三度の重音進行も多い。連打と重音進行の練習には非常に適した曲である。それだけに、演奏者泣かせな曲であるが、それ以上に魅力あふれる二つの曲である。今回は、時間の関係で１番のみを演奏する。

研究演奏発表趣旨

5. ピアノ連弾　　ローゼンブラット作曲　二つのロシアの主題によるコンツェルティーノ

プ リ モ：生地　加代（武庫川女子大学）
セコンド：山本　敬子（大阪千代田短期大学）

この作品は、1999 年～2000 年にかけて日本で開催された、ピアノデュオ作品による第５回コンクール（国際ピアノデュオ協会主催）において、ローゼンブラットが特別賞・毎日新聞社賞を受賞した時のもので、「ピアノ連弾」「ピアノと弦楽器」「ピアノとオーケストラ」の３つのスタイルで存在する。

世界的にもよく知られるロシアの民謡「カリンカ」と「モスクワの夜」のメロディが使われており、この２つの主題は、ジャズ風なリズムやハーモニーの動きとともに組み合わされている。また、観客側が「聴く」という行為だけにとどまらず、見て楽しむこともできる妙技（作曲者は Piano Stunts と称している）がいくつか使われており、日本国内において「二人羽織」と俗称されることもある、ピアニストにとって重宝がられる人気のある作品である。

6. ピアノ連弾　　ピアソラ作曲　リベルタンゴ
葉加瀬太郎作曲　情熱大陸

プ リ モ：古庵 晶子（京都ノートルダム女子大学）
セコンド：鷲見 美千代（園田学園女子大学短期大学部）

保育者養成のピアノ指導においては、基本的な問題のほかに、学生気質の変化も加わり、何処の養成課程も同様の悩みを抱えていると思われる。読譜・コード奏のほかに、ポップスなど学生が普段よく聴く曲の中から、リズムに視点を置いた曲も入れての系統立てたピアノ指導もひとつの方法であり、時代の流れでもあるのではないだろうか。そのような観点から、今回はいわゆる正統なクラシック作品ではなく、ワールドミュージック的なものとニューエイジと呼ばれるジャンルを取り上げることにした。いくつかある編曲楽譜の中からの選択は悩ましくもあったが、編曲者によって思い描く原曲のイメージがそれぞれに反映されており、相関・異質の点において様々な点が興味深くもあった。イージーリスニングとして知られるものを、ピアノ連弾でどこまで心地よく聴かせられるかが、大きな課題である。作品の背景や作曲者については、いうまでもなくよく知られているので、割愛させて頂きたい。